

2015年7月25日

『帰ってこいよ 2015～新旧社会福祉士実習生の懇親・情報交換会～』議事録

作成 地域福祉推進担当 金子穂純

- 日時：2015年7月25日（土）1600-1800
- 場所：和田ふれあいの家
- 参加者：以下のとおり

実習生 OB：7大学10名＋書面参加1名

- Tさん（日本社会事業大学 OB、昨年度サンフレンズ善福寺で実習）
- Mさん（日本福祉大学 OB、昨年度和田ふれあいの家で実習）
- Nさん（日本福祉大学 OB、昨年度和泉ふれあいの家で実習）
- Yさん（日本福祉大学 OB、かつて和泉ふれあいの家で実習）
- Hさん（日本福祉大学 OB、昨年度和泉ふれあいの家で実習）
- Mさん（東京福祉大学 OB、昨年度サンフレンズ善福寺で実習）
- Mさん（武蔵野大学 OB、昨年度サンフレンズ善福寺で実習）
- Sさん（現職員、日本体育大学 OB、かつて和泉ふれあいの家で実習）
- Kさん（現職員、大正大学 OB、かつてサンフレンズ善福寺で実習）
- Uさん（現職員、法政大学 OB、かつて和泉ふれあいの家で実習）
- Sさん＝書面参加（武蔵野大学 OB、昨年度上井草園で実習）

新実習生：7大学9名

- Kさん 日本福祉大学（通信） 和田ふれあいの家、7/6～7/13、7/27～8/13
- Iさん 東洋大学 和田ふれあいの家、8/10～9/9
- Yさん 田園調布学園大学 上井草園、8/6-9/8
- Tさん 武蔵野大学（通信） 和田ふれあいの家、10/1-11/30
- Oさん 法政大学 上井草園、8/17-9/17
- Hさん 法政大学 和田ふれあいの家、8/10-9/30
- Mさん 東京福祉大学 サンフレンズ善福寺 6/1-6/13、7/21-8/15
- Nさん 東京福祉大学（通信） サンフレンズ善福寺 7/1-10/31
- Aさん 日本大学 サンフレンズ善福寺 8/1-11/31

特別アドバイザー：武蔵野大学・前廣先生

法人実習指導者：和田ふれあいの家・飯田、サンフレンズ善福寺・桜庭、地域福祉推進室・金子

●概要：

大勢のご参加があったため、今回は実習先3か所に分かれてのグループ懇談としました。OBの皆さんは、久しぶりに逢った同士、実習の思い出を語り合いながら、後輩実習生からの質問に対して、自らの体験からアドバイスをしてくださいました。「実習に臨む姿勢」「事前学習」「実習記録の記入」「利用者さんとの接し方のコツ」などの話題が中心となりました。



●議事

- (1) 自己紹介 16 : 00～16 : 30
- (2) 実習についての質疑応答（新規実習生⇔実習生 OB、OG + 法人職員） 16 : 30～18 : 00

①実習に向けて何を勉強しておけばよいか？

…「高齢社会」「認知症」「介護保険制度」「生活保護制度」などについては、最低限度の理解をして置くことが必要です。また、自分が実習する施設や法人の理念・運営方針・活動内容・特徴などについては、ホームページ <http://www.3friends.or.jp/>から調べておきましょう。

②実習時の服装について

…面接とは違うので、活動しやすい服装で臨んでください。ただし、活動場所が高齢者施設だということを頭に置いて常識で考えてください。エプロン、上履き、着替えについては、事業所ごとに違うので、それぞれに相談してください。

③実習目標や実習計画をどのように定めたら良いのか？

…学びたいことはたくさんあるだろうし、活動する中で新たに関心を持つこともあるはず。でも、それらが多すぎると焦点がボケてしまうことにもなります。そういう点では日々の目標をしっかりと持って臨むことが大切です。

目標や関心が変わってくるのはあたりまえです。そんなときは、指導者に相談して、実習プログラムを追加したり、変更してもらいましょう。

(例 1) 登校時間を変更して早番や遅番を希望し、起床時・就寝時の援助を学んだ。

(例 2) グループホーム見学を希望して、近隣施設に連れて行ってもらった。

(例 3) 実習期間中はもちろん期間外のイベントやボランティア活動に希望して参加させてもらった。



④利用者さんとの接し方やコミュニケーションについて

…話したり喋ることが目的ではありません。「社会福祉援助技術」や「バイステックの7原則」を意識しながら接してみましょう。

「利用者さん」が伝えようとしていることを「アナタ」が受け取り（訴えを受け取り、ニーズを感じ取り…）、「アナタ」が伝えようとしていることが「利用者さん」に伝わり、（受容していることが伝わり、援助関係が形成され…）というやりとりです。その際、「アナタ」は「利用者さん」に対して、どういう工夫をしてこの目的を果たすのでしょうか？（答えは実習で…）

⑤実習ノートの書き方について

…「どういう事実があった」「それに対して自分は（職員は）どう考えどう行動した」「それに対する考察・反省」。前記3点が、社会福祉相談援助実習生のいう立場で書かれている事が必須です。ただし、学校によって書式・様式が違うので、それぞれの学校の実習指導の先生と確認してください。

毎日の最後に実習日誌を書く時間が与えられますが、この時間内で書き上げるのはかなり大変です。ただし、限られた時間の中で記録（自分用のメモではない／第三者が見てわかる）を書くことの訓練でもあります。疑問に思ったこと等は、活動中に（ただし利用者さんや周辺に失礼の無いように）メモを取り、休憩時などに、自分の考えや疑問点をまとめておく必要があります。

⑥介護現場で社会福祉士実習生が関わる活動はどこまで？

…アナタの実習期間には、介護福祉士、教職学生の介護等体験、中学生の職場体験、知的障害学生の職場体験等、他の実習生も入ってきます。それぞれの実習種別によって、学ぶことが違い、それぞれの実習生によって、経験・力量が違うため、関わっていただく活動も違います。

社会福祉士実習では、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）を学ぶことが主になりますが、対人関係をつくる上で必要なレクリエーション活動等への参加や、コミュニケーションの一環として最低限度必要な介護技術（車いす操作、手引き、椅子への立ち座り）については、は学んでいただきたいと考えています。アナタ自身の希望にも可能な限り応じたいので、それぞれに相談してください。

⑦実習指導者以外の職員さんとの接し方について

…実習中は、利用者さんと接するため、実習指導者と離れて介護の現場にいる時間のほうが長くなります。そこにいるのは、介護職員、看護職員等、実習指導者（生活相談員）以外の職種の職員です。このような環境に置かれた時、不安にある実習生が多いと聞きます。

a.受入事業所側としては、個々の学生のその日の学習内容や目的（実習プログラム）を、実習指導者から現場職員に伝え、または代行指導者を指名し、学生と現場職員がその都度質問／指導できる態勢を用意しておくことが望まれます。

b.学生側としては、「行き当たりばったり」「行き当たりばったり」でなく「活動場面ごと、自分はそこで何をすべきか」事前に考え、指導者と確認をしておくことが望まれます。どうしてもいかわからないときは、自分から質問していくことが大切です。現場職員も忙しいので、「指示待ち」でいると、場合によっては「おいてきぼり」になってしまいます。

現場職員からも情報をもらうことによって、実習指導者からもらった基本情報が、よりくっきりとしてくるはずですよ。とは言え、「この質問はどの職種の職員にしたらよいか？」は意識してほしいところ。だとすると、その事業所では「どの職種がどういう援助活動をしているのか？」、また、「それがどう連携をしているのか？」を事前に知っておかなければなりませんね。

⑧アセスメントや援助計画の作成について

…認知症等で利用者さんの意向を引き出しづらいの方や、利用開始から間もないために情報が少ない方。そんな利用者さんに対するアセスメントやそこからの援助計画の作成は難しいですね。そこをアセスメントするには、ソーシャルワーカーとしてのプロの技量が求められる訳です。

一方、実習時に作っていただく援助計画には、正解・不正解はありません。「その人にとって何が大切と、なぜアナタは考えたか？」こそが大切です。その根源としてしっかりしたアセスメントが求められます。

アセスメントや援助計画の作成のヒント・キーワードとして、「非言語コミュニケーション」「情報源」「他職種連携」「パーソンセンタード方式」「利用者主体」などを挙げておきます。（答えは実習で…）

⑨実習生同士の意見交換や気づきの共有

…多くのOBから「同時期に実習する学生同士で意見交換をしたり、お互いの気づきを共有することができてよかった。」「お互いを励まし合って実習を乗り切ることができた。」という声が挙がりました。

